

平成 27 年 2 月 17 日

第 50 回 長崎キワニスクラブ例会資料

(12 : 30～)

1. ゴング…開会
2. 国歌・キワニス讃歌斉唱
3. 会長挨拶

(12 : 40～)

4. 昼食

(13 : 05～)

5. 卓話 講師：陳 東華 さま
演題：『日中の文化比較について』
情報：1944 年 生まれ（在日華僑 4 世。泰益号の子孫）
JAL シテイ長崎 代表、長崎福建会館理事長、長崎中国交流史協会
専務理事など。日中交流史研究をライフワーク。
執筆：長崎居留地の中国社会、長崎華僑の歴史、孫文と長崎など。

(13 : 30～)

6. その他
 - (1) 各委員会連絡事項
 - (2) 次回例会

第 51 回例会

平成 27 年 3 月 03 日 (火) 12 : 30～

第 52 回例会

平成 27 年 3 月 17 日 (火) 12 : 30～

(13 : 35)

7. 閉会…ゴング

以 上

陳東華・楊智香ご夫妻



「あなたに首ったけ」陳 東華・楊 智香ご夫妻 ホテルJALシティ長崎 代表

日本の古語に「山際」と「山の端」があります。「やまぎわ」は山に接する空の部分、「やまのは」は空に接する山の部分。どちらも似たような物で、使い分けるのは難しいのですが、それにしても何故こんな言葉が生まれたのでしょうか？

「うちの奥さんは、まあ、穏やかな人ですね」

ご主人の陳さんが評すると、

「主人も、まあ、穏やかな人ですよ」奥さんの楊さんも同じ答え。

それならば“似た者夫婦”なのかと思うと、「微妙に違うんです」と、ご主人。「そう。夫婦って共通の世界を持つのが大切なんですけど、でも、お互いに違った方向から接することも必要だと思いますよ」奥さんが補足する。そして、ふと見つめ合う視線は大地と空が接するように、ごく自然。まさに「山際」と「山の端」の関係だ。

二人が知り合ったのは、長崎生まれの陳さんが京都で過ごしていた学生時代。京都生まれの楊さんはまだ高校生だったが、華僑協会で中国語を習った時の先生が陳さんだった。その後、楊さんは高校を卒業して華僑協会に勤めるようになり、そこで仄かな愛が生まれたとか。

陳さんは福建省出身華僑の四代目、楊さんも同じく福建省出身華僑二代目だった。そんな共通の世界が二人を強く結びつけたのだろうと、お互いに若き日々を振り返る。

「それに、結婚って相手の人柄ですよ」「そうね。この人となら苦勞を共にするわよって気持ちがないといけませんよね」

現在、陳さんは『上海遊友俱樂部』の代表として、何度も多くの人を上海に案内しているが、この時も奥さんは写真撮影などで、ご主人の仕事をバックアップしている。日常でも、自宅と仕事場の送り迎えの車の運転は奥さんの役目だとか。

ところで、国籍は中国のままだそうですね。「はい。別に拘りがある訳ではないんですが、必要性も感じませんから」と、陳さん。

「そうね。お互いが“心のふるさと”同志なのよね」二人は頬を紅くして見つめ合う。

あれあれ、新婚さんと話しているような雰囲気になって来ましたよ。母国愛もさることながら、夫婦愛が一番よろしいようで……。

それじゃ、お邪魔にならないうちに、私たちも退散することにいたしましよ
う。

